

◆点検シート(新基準)

評価基準	1 理念・目的	点検単位	発達教育学研究科 児童学専攻
点検・評価年度	2018年度(対象:2017年度)		

① 大学の理念・目的を適切に設定しているか。また、それを踏まえ、学部・研究科の目的を適切に設定しているか。

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。

児童学専攻においては、児童発達・児童保健・児童文化に関する3分野を設け、子どもの発達支援と子育て支援に関する専門的な内容について、多様なアプローチを行っている。児童発達分野では、発達心理学の視点から、主として子どもの社会性やパーソナリティの発達、親子関係に焦点を当て、子ども自身や家族に対する支援、保育に関する支援など、今日的、臨床的な課題について理解を深めることを理念・目的としている。児童保健分野では、子どもが心身ともに健康に育つためのさまざまな課題について、保健学的、医学的に理解を深めることを理念・目的とし、小児治験の促進に関する研究、病気をもった子どもへの支援、周産期異常や早期産などのハイリスク児の臨床的問題を研究テーマとしている。児童文化分野では、子どもを取り巻く文化の問題について、多角的な視点から文献や調査、実践を通して研究し、児童文学・絵本等の作品論、作家論等を研究対象とするとともに、子どもたちの感性を育む、造形や音楽、身体による表現活動の実践を通じて理解を深めることを理念・目的としている。このような理念・目的は、今日の社会的状況の中で児童学専攻として適切に設定されている。

【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。

【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。

当専攻は、入学、在学生に対して、児童発達・児童保健・児童文化の3分野ごとに多数の教員が指導に当たる体制となっており、研究の指導と論文作成への細やかな支援を行っている。その結果、修了した学生の多くは教職などに就き、活躍している。

【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。

【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。

【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。

【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。

現在は在学者の数がやや少なく社会人の受験生も減少していることが課題である。募集要項や学園要覧および学外向け広報誌等への掲載とともに、今後に向けた本学の学部や他大学からの大学院への進学者をさらに増加させるため、学部生への履修指導や修論発表会等を周知徹底していくことが継続的な課題である。

② 大学の理念・目的及び学部・研究科等の目的を学則又はこれに準ずる規則等に適切に明示し、教職員及び学生に周知し、社会に対して公表しているか。

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。

本研究科の理念・目的について、教員は教授会をはじめ各種会議・広報において周知しており、本学の学生を対象とした大学院の目的・理念および各専攻の特色について懇切丁寧な説明会等も行っている。また、教育実習や保育実習の協力校との懇談会等において、幼稚園や保育園・こども園の先生方を対象に大学院の案内をしている。更に、大学院受験希望者には、広く、児童学専攻の理念・目的や実際の内容について、個別に説明し理解を求めてきている。そのような結果、児童学専攻では社会人の受験生も多くなることが特徴となっている。今後は、児童学専攻の理念・目的や実際の内容について、他専攻との交流を行いながら一層積極的に情報発信をしていく必要があると考える。情報発信の手段として、理念・目的を文章で公表するだけでなく、学科の理念・目的をわかりやすく社会に伝えるために、教員や学生が社会や教育の中で実践的に活動し社会貢献を行っている。大学構成員に対しては毎年更新されている「大学案内」、「大学院案内」、パンフレットや、日々更新している大学のホームページなどで周知徹底することに努めている。

【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。

【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。

大学院受験希望者には、広く、児童学専攻の理念・目的や実際の内容について、個別に説明し理解を求めてきている。そのような結果もあり、児童学専攻では幼稚園や保育園・こども園で活躍する社会人の受験生が多くなっている。

【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。

【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。

【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。

【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。

情報発信の手段として、理念・目的を文章で公表するだけでなく、学科の理念・目的をわかりやすく社会に伝えるために、教員や学生が社会や教育の中で実践的に活動するとともに、地域における社会貢献の充実という課題に取り組んでいる。そこで、それぞれの教員が地域と連携を行いながら、様々なアプローチにより具体的な情報の発信を行っている。また、ここ数年社会人の受験生も減少していることもあり、社会貢献の充実とともに徹底していくことが継続的な課題である。

③ 大学の理念・目的、各学部・研究科における目的等を実現していくため、大学として将来を見据えた計画その他諸施策を設定しているか。

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。
研究科の理念・目的の適切性について、定期的に検証を行ってはいない。しかし、学科会議等を通じて、教育内容やカリキュラムの現状や問題点とともに、その理念と目的といったカリキュラム内容や授業の担当者などの検討項目について改善点等を教員間や専攻間で意見交換している。このような議論を通して、学科のあり方とともに大学院のあり方(理念・目的)へと発展しており、教員一人ひとりがさまざまな機会、例えば児童館や幼稚園などの地域連携、親子支援ひろば・公開講座など外部と交流する機会を通じて社会の情勢や社会的ニーズをとらえ、それを話題として、今後の学部児童学科とともに大学院児童学専攻の理念・目的をより適切なものにしようと努めている。
【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。
【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。
教員全員がさまざまな機会を通じて社会の情勢や社会的ニーズをとらえ、それを話題として、今後の学部児童学科とともに大学院児童学専攻の理念・目的をより適切なものにしようと努めている。
【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。
【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。
【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。
【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。
今後、時代的変化に応じてより組織的に、本専攻の理念・目的の適切性を定期的に見直していくことが求められる。そのために、他専攻との交流を図りながら、本専攻の理念・目的をより適切なものにすることが喫緊の課題である。

内部評価委員会からの評価結果(内部評価結果レポート)

一般的なコメント(総評)
今日の社会的状況をふまえ、児童学専攻の理念・目的が適切に設定されている。さらに、その周知についても「大学院案内」やホームページなどの媒体における一般的な周知にとどまらず、教員や学生が社会の中で実践的に活動し、地域における社会貢献の充実や地域との連携に取り組む中で周知を行っていることは特筆に値する。
改善勧告コメント(点検単位からの意見を求めるもの)

内部評価結果レポートの改善勧告コメントに対する点検単位の意見

意見

◆点検シート(新基準)

評価基準	4 教育課程・学習成果	点検単位	発達教育学研究科 児童学専攻
点検・評価 年度	2018年度(対象:2017年度)		

① 授与する学位ごとに、学位授与方針を定め、公表しているか。

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。 「学位授与の方針」に掲げた能力を修得させるため、「京都女子大学大学院人材養成・教育研究上の目的に関する規程」別表2「学位授与の方針」を定め、公表している。また、「大学院案内」大学の開設するHPや冊子などによって、教育課程修了後に得られる学位の種類、更には大学院における学習環境、進学予定者に求められる学習態度等について、広く学内外に基本的な情報が行き渡っており、相応の理解が得られていると考える。
【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。 【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。
【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。 十分な学生募集ができていない。
【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。 【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。
【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。 学生募集ができていないことから、さらに積極的に効果的な周知と広報を検討する。

② 授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか。

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。 「学位授与の方針」に掲げた能力を修得させるため、「京都女子大学大学院人材養成・教育研究上の目的に関する規程」別表3「教育課程編成・実施の方針」を定めており、「学位授与の方針」との関連性を踏まえて、教育課程の編成内容を示しており、大学が運営するウェブサイトや発行する冊子(入学時に配布される大学院要覧など)において公表している。
【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。 【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。 特筆すべき事項なし。
【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。 特筆すべき事項なし。
【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。 【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。
【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。

③ 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成している。

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。 児童学専攻は教育課程編成・実施の方針に基づき、児童発達、児童保健、児童文化の3つの領域によって構成されている。各領域において児童の心身の発達や健康、児童文化について科学的にとらえ、発達支援・子育て支援のためのより高度な方法や理論を学べるようにカリキュラムを体系的に構成している。また、各領域において、修士論文を作成するための指導が可能となるように授業展開を行っている。
【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。
【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。 教育課程の編成・実施方針に基づいた体系的な教育課程を編成している。
【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。
【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。
【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。
【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。

④ 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。 児童学専攻においては学生が主体的に学習できるように講義科目・演習科目の内容を設定している。シラバスにおいて学習目標、科目目標と評価方法を明確に示し、大学ホームページにて学内外に公表されている。修士論文の指導においては発表会等を行い、専攻における全教員が大学院生の研究内容を把握し、多面的な指導を行っている。またティーチングアシスタント(TA)制度が導入され、学生はTAによる授業の準備や指導補助の経験を通じて、自らの学習到達度の確認と教育力の向上といったキャリア形成の一助とし活用している。
【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。
【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。 特筆すべき事項なし
【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。 特筆すべき事項なし
【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。
【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。
【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。

⑤ 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。 シラバスにおいて「評価項目」「配分(%)」「評価の観点」等の評価基準を明らかにし、厳格な成績評価に努めている。授業科目の成績評価は個々の担当教員に任せ、単位認定に関しては「大学院学則」に則り、厳正且つ問題なく行っている。また、提出された各学生の成績は教務課・教務委員会において確認・点検され適切な単位認定が行われている。 学位授与の諸要件は大学院学則に定める要件を満たし、あわせて別に定める学位論文審査基準を満たす必要がある。研究成果については長い質疑応答時間を確保した発表会等を行っており、専攻における全教員が大学院生の研究内容を十分に把握するように努力している。修士論文は、指導教員(主査)および2名の副査による試問を行った後、試問者による会議を経て可否案が作成され、その後、発達教育学部研究科委員会の議を経て可否の可否について審議されるため客観性は保たれている。
【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。
【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。 特筆すべき事項なし
【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。 特筆すべき事項なし

【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。
【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。
【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。

⑥ 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。 児童学専攻は、児童発達・児童保健・児童文化の3領域によって構成され、児童の心身の発達や健康、生活・文化についての高度な専門的知識を身につけ、児童が健やかに生きるための専門的職業人や研究者の養成を目指している。本専攻の学習の成果を測定するための指標については、本専攻のすべての授業における「シラバス」に明記され、これに沿って各担当教員が評価している。また、学位論文の審査に際しては、研究科委員会により審査委員会が設置され、「学位論文審査基準(発達教育学研究科)修士論文の審査基準」にそって審査されている。
【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。
【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。 研究科委員会で報告される修士論文審査報告の内容は的確であり、問題は生じていない。
【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。
【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。
【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。
【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。

⑦ 教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。 教育課程及びその内容、方法の適正については、毎年度、次年度の時間割を作成する際に、各科目の受講者数の確認、カリキュラムの妥当性、担当者の選定などを学科内の教務委員会および学科会議で検証している。また、全学の教務委員会あるいはワーキンググループで全学的な観点からも検証している。その他の改善に結びつける取り組みとしては、全学のFD講演会、学科内のFD研究会、FD交流会、公開授業への参加等を通して行っている。
【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。
【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。
【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。 複数の評価指標を用いた多面的な評価を行う。
【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。
【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。
【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。

内部評価委員会からの評価結果(内部評価結果レポート)

一般的なコメント(総評) 適切な教育課程が編成されていると理解できるが、それが学生募集に必ずしもつながっておらず、この点に関して今後の取り組みを検討する必要がある指摘されている。
改善勧告コメント(点検単位からの意見を求めるもの)

内部評価結果レポートの改善勧告コメントに対する点検単位の意見

意見

◆点検シート(新基準)

評価基準	5 学生の受け入れ	点検単位	発達教育学研究科 児童学専攻
点検・評価 年度	2018年度(対象:2017年度)		

① 学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。 発達教育学研究科児童学専攻修士課程の学生の受け入れ方針については、「入学案内・募集要項」において明示するとともに本学ホームページにおいて公表している。
【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。
【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。 特筆すべき事項なし
【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。 発達教育学研究科児童学専攻修士課程の入学定員は6名であるが、平成29(2017)年度には入学者はなかった。今後は内部進学者の確保および保育現場の経験者などの社会人の受け入れを積極的に検討する必要がある。
【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。
【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。
【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。

② 学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。 発達教育学研究科児童学専攻修士課程においては内部進学者に向けての推薦入学試験を実施するとともに、一般入学試験を秋季と春季の年二回実施している。内部進学者については、面接試験を実施し、一般入学試験においては外国語試験と児童発達・児童保健・児童文化の3領域から出題された専門試験を課し、公正かつ適切に入学者の選抜を実施している。
【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。
【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。 特筆すべき事項なし
【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。 現状では児童学専攻としての学生受け入れにかかる組織的な取組みが整っていないため、出題や選抜にかかわる教員が一部に偏りすぎている。
【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。
【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。
【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。 今後は内部進学者の確保および保育現場の経験者などの社会人の受け入れを積極的に検討する。

③ 適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき、適正に管理しているか。

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。 ※個別の視点での記入は不要です。
【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。
【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。
【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。

【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。
【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。
【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。

④ 学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。
 学生募集および入学者選抜については、発達教育学研究科委員会及び大学院委員会にて審議・承認を得るという手続きをとっている。また、学生募集と入学者選抜の在り方については、本専攻における学生の受け入れ方針に基づき研究科入試委員会で定期的に検討されており、検討結果については適宜学科会議に報告されるとともに、必要があれば審議している。

【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。

【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。

特筆すべき事項なし

【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。

特筆すべき事項なし

【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。

【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。

【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。

内部評価委員会からの評価結果(内部評価結果レポート)

一般的なコメント(総評)

内部進学者の確保および保育現場の経験者などの社会人の受け入れの検討など、学生の確保にかかる改善に向けた取組が検討されており、今後に期待される。

改善勧告コメント(点検単位からの意見を求めるもの)

内部評価結果レポートの改善勧告コメントに対する点検単位の意見

意見

◆点検シート(新基準)

評価基準	6 教員・教員組織	点検単位	発達教育学研究科 児童学専攻
点検・評価 年度	2018年度(対象:2017年度)		

① 大学の理念・目的に基づき、大学として求める教員像や各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を明示しているか。

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。

本専攻(児童発達・児童保健・児童文化領域から構成)においては、大学院設置基準に準じて、大学院修士課程を担当するに相応しい資質・能力を備えた教員組織の整備を図っている。新規教員の採用にあつては、教員審査規程に準じて、児童学専攻教員組織を構成するに相応しい人材を採用している。ここ数年間は、定年に伴う退職教員に替わる新規教員の採用が続いているが、上述した基準に則り、新規教員の専門性をいかしつつ、適材適所の教員配置をすすめているところである。加えて、学部教育との連携を念頭に、教員配置にあつては、学科主任を中心として、専攻全体の連携体制を整え、常に教員相互の意思疎通や課題共有を図っている。その一方で、一部教員においては、発達教育学部児童学科専任教員でありながら、大学院教育学専攻担当教員といういわばねじれ現象が生じている現状があり、その改善が継続課題となっている。

【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。

【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。

①児童学科教員の一部分が大学院教育学専攻担当教員となっているねじれ現象の解消

【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。

特記事項なし

【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。

【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。

特記事項なし

【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。

次期大学・大学院改組に合わせた教員組織の見直しを行い、ねじれ現象の解消を図る。そのために、研究科委員会当該専攻間において調整を行う。

② 教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。

大学院設置基準、教員組織の編制方針に準じて、児童学専攻(児童発達・児童保健・児童文化の3領域構成)の改革をすすめている。かねてより、年齢構成の偏り(55歳以上教員の割合90%前後)解消を念頭に児童学専攻の組織改革を行ってきた。加えて、各教員の専門分野に関する研究業績や教育における指導能力等も考慮した教員組織をめざしてきた。とくに、教員の専門性と担当科目のマッチングを重視するとともに、設置基準との整合性や教員の男女構成比等にも配慮してきているところである。

【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。

【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。

①年齢構成の偏り解消を念頭に児童学専攻の組織改革を行ってきた。その結果、55歳以上教員の割合が、約90%から30%へ大きく改善された。

【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。

特記事項なし

【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。

【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。

特記事項なし

【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。

次期の大学・大学院改組に合わせた教員組織の再点検を行う。

③ 教員の募集、採用、昇任等を適切に行っているか。

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。 教員の募集・採用・昇格については、大学院設置基準に準じて、児童学専攻における教員組織の編制方針および教育課程に照らして、人事募集案件を検討している。さらに、研究科委員会において他専攻からの委員も含めた選考委員会が組織され、厳正な審査を経て最終的な議決が行われており、教員の募集・採用・昇格の立案から決定に至る過程は公正・適切に実施されている。
【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。
【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。 ①児童学専攻だけでなく、研究科委員会での厳正な審議を行うことにより、教員の募集・採用・昇格等に関して適切な運用が行われている。
【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。 特記事項なし
【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。
【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。 特記事項なし
【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。 教員の採用や昇任に関する客観的基準(数値化など)の設定を行う。

④ 教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。 自己点検・評価をはじめ、FD活動や教員の資質向上を図る取り組みが計画的に実施されている。具体的には、各教員の授業担当の状況や研究業績の開示、外部資金獲得状況、授業評価など、教員の資質向上を図るための方策が講じられている。ただし、FD活動への参加については個人差が大きい。とりわけ、授業評価に関しては大学院の場合、その実施方法に関して課題があり、教員の資質向上には反映されにくいと思われる。
【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。
【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。 特記事項なし
【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。 ①大学院に焦点化したFD活動が必要である。
【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。
【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。 特記事項なし
【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。 大学院におけるFD活動を検討する。

⑤ 教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

【現状説明】必ず記入…設定した目標の進捗状況・評価の視点を含め、400字～500字(10行以内)で現状説明を記入。 本専攻では、毎年実施している自己点検・評価に加え、改組等に伴うカリキュラム見直しにあわせて教員組織の適切性について議論している。そのうえで必要に応じて、学科会議で採用人事案を検討・策定し、全学常設人事委員会へ提案を行っている。
【点検・評価】必ず記入…効果が上がっている事項または、改善すべき事項のうち、どちらか記入(両方記入可)。
【成果および伸長方策】…現状説明の中から効果が上がっている事項を箇条書きで記入。 特記事項なし
【課題および改善方策】…現状説明の中から改善すべき事項を箇条書きで記入。 特記事項なし
【将来に向けた発展方策】…実行可能な方策が計画されている場合のみ具体的に記入。
【将来に向けた発展方策(伸長方策)】…点検・評価(効果が上がっている事項)に関連させ、今後の伸長方策を記入。 特記事項なし

【将来に向けた発展方策(改善方策)】…点検・評価(改善すべき事項)に関連させ、今後の改善方策を記入。

特記事項なし

内部評価委員会からの評価結果(内部評価結果レポート)

一般的なコメント(総評)

近年、年齢構成の偏りが大きく改善された。一方、発達教育学部児童学科専任教員が大学院に置いては他専攻の専任教員として配置されていることについては、今後の教育課程等を踏まえて発達教育学研究科全体で検討する必要があると考えられる。

改善勧告コメント(点検単位からの意見を求めるもの)

内部評価結果レポートの改善勧告コメントに対する点検単位の意見

意見